

石川県立小松特別支援学校 令和2年度 自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組（主担当）	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の課題
1 指導力の向上	【授業改善】 学習指導要領の趣旨に沿った学習指導要領の設定、学習評価に取り組み、「個別の指導計画」に基づいた授業改善を図る。 (教務課)	【努力指標】 「個別の指導計画」の作成にあたって、新学習指導要領の趣旨を意識した目標・評価を実施することができた。	新学習指導要領の趣旨を意識した学習目標の設定や学習評価を行い、授業改善を図った教員は A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以上で達成	C 教員を対象にアンケートを実施した結果、授業改善を行ったとする教員は71%であった。研究授業未実施の教員もおり、授業改善が不十分だとした教員は授業計画や授業展開・評価が現時点では不十分であることを理由に挙げている。今後は新学習指導要領による目標や評価を明確にして、各部署で周知し、全教員が授業改善を行う。
		【満足度指標】 「個別の指導計画」の目標や達成のための指導は妥当であり保護者の思いが反映されている。(保護者アンケート)	「個別の指導計画」の目標や指導は適切であり、保護者の思いが反映されていたか A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A 保護者アンケートの結果99%が保護者の思いが反映されていると答えており、「個別の指導計画」の目標や支援等の計画に対する保護者の満足度は高い。計画に基づいた指導については保護者の思いや願いを受け止めながら指導の成果を出し、今後も懇談等を通じてさらに連携を深める。
	【研修の充実】 授業改善のために講師を招聘し、研修や授業参観等を行いながら授業づくりや指導法を学ぶ。(研修研究課)	【成果指標】 研修で講話の内容や講師の助言を受けて、自分の授業を改善することができた。	研修会を参考にして授業改善ができた教員は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A 小学部教員を対象にアンケートを実施し、80%の教員が授業改善ができたと答えている。研修については9月に講師(大学教授)を招聘し「シート」を活用した研究授業での助言を受けたり、講演会で学習したりして授業改善に生かすことができた。11月の研修会では、講師に具体的な指導内容を質問し、更に授業改善につながる充実した研修を実施していく。
2 災害に備える	【危機管理マニュアル見直し】 地域の専門家と連携し、土砂災害避難訓練やマニュアル改善に役立てる。 (学校安全課)	【努力指標】 本校の土砂災害の発生の恐れや避難場所、避難方法について専門家よりアドバイスを得て、教職員に周知する。	専門家より得たアドバイスを土砂災害避難訓練やマニュアルにおいて改善できた項目は A 10項目以上できた B 8項目以上できた C 5項目以上できた D 5項目未満しかできなかった	B以上で達成	未実施 コロナの影響等で会が延期となり、10月下旬に検討会を実施して変更点を確認中である。助言を踏まえ12月に避難訓練を実施し再度アドバイスを受ける予定である。また、避難訓練全般について教職員に記述式のアンケートをとったところ、避難訓練の重要性は十分に理解されており、実際に即した形での訓練が望まれている。コロナ禍における避難の仕方については多くの教員が不安を感じていることが分かり、今後は防災教育の取り組みを進めるとともに、教員同士の連携等について確認する必要がある。
3 キャリア教育の推進	【積極性の育成】 児童が、スポーツの楽しさ・身体を動かすことの楽しさを感じられるように、学習活動の中でニュースポーツに取り組む。 (小学部)	【成果指標】 ニュースポーツへの取り組みを生かして、児童がスポーツを楽しむ、身体を動かすことへの積極性が育まれたと感じる教員の割合が	ニュースポーツへの取り組みを生かして、児童がスポーツを楽しむ、身体を動かすことへの積極性が育まれたと感じる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A 小学部教員にアンケートを実施し、84%の教員が児童に積極性が育まれたと答えている。フライングディスクやポッチャを通して、ルール理解や運動への意欲、友達との協働的な姿が見られた。ルール等の工夫や場の設定、外部専門家による指導等が有効であった。一方で、競技内容が児童によっては難しい場合があった。今後はより発展的な内容や達成感を得やすい内容などを工夫しながら進めていきたい。
	【作業学習の充実】 学部各作業班で、新製品の開発や地域活動の活性化等が求められており、作業学習の充実を図る必要がある。 (中学部・高等部)	【成果指標】各作業班が、作業製品や外部活動の目標を持ち、計画的に実行する	各作業班の目標が達成された割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	B 中高作業班(中3、高7)のうち、7班が班の目標を達成した。作業製品を充実させるために、作業製品開発会議を開き、顧客目線に立ってアイデアを出し合い、新商品を開発したり、他の作業班と連携したコラボ製品を開発したりしている。課題は、製作した商品を販売する機会が少ない点である。今後、11月の学校公開や12月の学校祭に向け、保護者を対象に販売活動を実施していきたい。
		【満足度指標】 本校の外部販売、作業製品等が充実していると感じている。(保護者アンケート)	本校のキャリア教育について理解し、本校の職業教育が充実していると感じる保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A 保護者を対象に、作業学習の充実に関するアンケートを実施し、保護者の87%が、本校の作業製品を購入したいと考えており、実用性に加えクオリティー(完成度)が高いとの評価であった。また、作業学習の授業で真剣に働く生徒の姿や新製品の情報についてホームページを閲覧した保護者は43%であった。今後は、ホームページの充実を図るなど、より多くの保護者に本校の作業製品のよさを広めていくことが課題となる。
	【外部と連携した授業づくり】 農業法人等への職場開拓に取り組み、雇用促進セミナーへの参加促進や産業現場実習の実施を目指すとともに、作業学習等において農業に関する学習の充実を図る。(進路支援課)	【努力目標】 農業法人等での産業現場実習を実施できた。または雇用促進セミナーへの参加があった。	農業法人等の産業現場実習および雇用促進セミナーへの参加が合わせて A のべ3社以上 B のべ2社 C 1社 D 0社	B以上で達成	D コロナ等により前期実習ができなかったことや、企業訪問や実習先開拓が進んでいないことから、今回は実習の実施、セミナーへの参加が難しい状況であった。9月以降の働きかけにより実習を検討する企業もあり、引き続き、12月のセミナーへの参加や外部講師の紹介などを要請していきたい。

石川県立小松特別支援学校 令和2年度 自己評価計画書（中間評価）

<p>4. 業務の効率化</p>	<p>【各課ハンドブックの見直し】 各課ハンドブックを見直す作業を通して業務の平準化を図り、校務支援システムを活用して校務の情報化を図る。(教頭)</p>	<p>【努力目標】 ハンドブック見直しや、校務支援システムの利用を通して、業務の効率化につながったか。</p>	<p>ハンドブック見直しや、校務支援システムを利用して、業務の効率化につながった教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>B以上達成</p>	<p>D 平準化や効率化を各課で図ることができたか課ごとにアンケートを実施した結果、改善が図られたと感じた教員の割合は42.5%であった。平準化については取り組みにより進んでいるが(70%)、効率化については難しかった(15%)。効率化を図る手だてとして考えていた校務支援システムの実施が遅れているためであり、今後は各課で対応策を検討し、集計方法の検討も考え、次年度のハンドブックに反映していきたい。</p>
------------------	---	---	--	--------------	--